

議事録			
件名	生物多様性なら戦略 第7回改定委員会	記録者	株式会社アドプランツ コーポレーション
月日	令和6年1月19日(金)		
時間	13:00~15:00	形式	委員会
場所	アクティ奈良6階スタンダードルーム		
出席者	希少野生動植物保護専門員	前田 喜四雄(哺乳類) 元吉 司(鳥類) 井上 龍一(両生類・爬虫類) 細谷 和海(魚類) 宮武 頼夫(昆虫類) 尾上 聖子(植物) 丸山 健一郎(菌類)	
	生物多様性飛鳥地域保全活動推進協議会	木村 史明(橿原市昆虫館副統括)	
	奈良県 景観・自然環境課	街道 互(課長) 福井 靖典(課長補佐) 山原 美奈(係長) 山口 貴大(主任主事) 木嶋 海智(主任主事)	
	株式会社アドプランツコーポレーション	原榎 由希子(担当技術者) 宮脇 泰子(担当技術者)	
議事次第			
1. 奈良県挨拶			
2. 令和5年度 生物多様性なら戦略 第3回改定委員会 出席報告			
3. 次期生物多様性なら戦略本文案について			
4. その他連絡事項			

1. 本会議の成立について

項目	概要
本会議の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・専門員 7 名全員の出席があったため、奈良県希少野生動植物保護専門員会議運営要領第 4 条第 2 項の規定により、本日の会議は成立した。

2. 第 2 回改定委員会後の修正箇所の説明

項目	概要
第 2 回改定委員会での意見を踏まえた修正箇所の説明等	<p>【修正箇所・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P51、53～55 にかけて、各施設や団体から写真と紹介文をいただき、挿入した。橿原市昆虫館については、現在、紹介文と写真の提供を依頼している。 ・P18 からの生きものの紹介につきまして、先生方のご協力をいただき、すべてを埋めた。ニホンジカについては、前田先生からのご意見もあり、削除した。 ・P70、71 の農業における取組、林業における取組、水産業における取組について、関係部署の担当者の意見を入れて修正した。
環境省の生物多様性地域戦略策定支援事業でアドバイスを受けての修正箇所の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・P14 の題名、「本県の風土や美しい景観を作り出してきた生物多様性」の後ろ部分を「生物多様性と文化」に変更した。環境省から、記載内容に文化的な内容をすでに含んでおり、新たな項目を追加するのではなく、そのことがわかるように題名に追記してはどうかという提案があり、検討しその文言を追加した。 ・P49 の図を変更。もともと三つの丸の真ん中に生物多様性なら戦略と記載していたが、三つの目標にまたがる統合的な目標もあるということで、真ん中の丸にそのことを記載し、1、2、3 にまたがる統合的な取り組みという記載を追加した。そして、生物多様性なら戦略という文言を図の一番

	<p>上に配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全再生の担い手育成について、別に項目立てした方がいいのではないかという意見があり、P49の図の2番の生物多様性の保全と再生という項目に、4番として生物多様性保全・再生の担い手育成を加えた。これに伴い、前回はコラム形式で記載していた担い手育成の文章を、P68に、4番、生物多様性保全・再生の担い手育成という記載に変更した。 ・行動計画に関して、特に重点的に取り組む目標について★印をつけたうえで、P80の行動計画の点検評価などの部分に主要評価項目の設定という項目を設けて★印を付けたものは再掲する、という提案があったため、重点取組を課の方で選定し、再掲した。 ・重点取組目標ごとに評価しやすい指標を設けることによって、進捗の確認がしやすくなるというアドバイスから、各★ごとに主要評価項目を設定した。 ・なら戦略の全体像となる体系図を示すべきだと指摘があり、環境省の委託業者の図案を巻末資料に添付した。
--	---

3. 本文案に対する意見・修正案

項目	概要
<ul style="list-style-type: none"> ・文体、用語等の統一について 	<ul style="list-style-type: none"> ・「及び」は「および」に統一すること。 ・写真の説明は右下記載に統一すること。 ・執筆者名は本文中から削除し、誰がどの部分を執筆担当したのかをリストに整理して示すこと。 ・動物の場合は「生息」、植物の場合は「生育」、動植物の場合は「生息・生育」としているが、動植物については「生息」でいいのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の説明の文字サイズを本文よりも小さくして統一すること。
・ 2 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・種の多様性について、「様々な種が参加しており」等の文章では、「参加」ではなく「構成」という言葉を用いて「生態系の様々な種から構成されており、それぞれの種が生態系を支えている」等にした方が良い。 ・鳥・アザミ・キノコの写真にはそれぞれ消費者・生産者・分解者というキャプションを入れ、順番は生産者→消費者→分解者、としてはどうか。
・ 8 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 行目のクビアカツヤカミキリによる「サクラの枯死」は、サクラに限定されるので、「サクラやモモなど」のように変えてはどうか。
・ 12 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・下から 7 行目の南部吉野山地は紀伊山地に修正すること。
・ 13 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・「他の地域では見られない珍しい現象があります」は生物分布について言うのであればあまり使わない表現である。 ・高標高地域や低標高地域などは、もっと平易な言葉にした方が良い。 ・また、この部分を「紀伊半島してる」について書いているのであれば内容がおかしい。 (井上先生が文章を書き直して県へ送ってくださる) ・里地里山の生態系の説明文について、「柴刈りや炭焼きをする」というのは現在では行われておらず、キノコ採りも一般的ではないと考えられる。また、「集落近くの山林などがあるところ」とあるが、山林だけでなく原野的なもの（ススキ草原等）も入ると考えられるため、文章を事務局にて文章を再考すること。
・ 16 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒメビシ、淡水カイメンの順なので、生育・

	<p>生息とした方がいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホソバニガナを削除した方が良い。
・ 17 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ P17、「奈良の春日の森」は「奈良市の春日山」あるいは「春日山原始林」でいいのではないか。 ・「垂直分布が日本の他の地域と大きく違っている」は言い過ぎではないか。 ・「植物相や昆虫相の組成が複雑」や「かけ離れた地域と共通した動植物が出現する」というのは、例えば植物であれば遺存植物のことを指していると思われるが、「紀伊半島で発達分化した動植物」というのは、紀伊半島で独自の文化を遂げたような言い方になっており、おかしい。
・ 18 ページから	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良の生きものたち」における種の取り上げ方について、植物と動物に分けるのか、もっと細かい分類群に分けるのか、順番はどうするのか等、事務局で再検討していただきたい。 ・ツキノワグマの種の概要の 1 行目「前身」を「全身」に修正すること。 ・コマドリの説明の下から 3 行目「おなかは白い」を「おなかは白色」に修正すること。
・ 20 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンイシガメの種の概要の 3 行目、「中上流域」を「中流域から上流域」に修正する。
・ 27 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・キリノミタケの種の概要の 4 行目、「子実体」を「キノコ (子実体)」に修正すること。
・ 31 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 行目、鳥獣被害は農作物被害だけでなく人的被害もあると思う。「これら野生動植物の増加によってマダニやヤマビル等が増加して人的被害も出ている」というような一文を加えたらどうか。 (ワンヘルス・アプローチの考え方)
・ 32 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラ枯れのコラムに常緑ガシの被害も付け加えたらどうか。

<p>・ 33 ページ</p>	<p>・ 放棄されている畑や水田を貸農園として活用することを追加してはどうか。 (行動計画へ記載を検討する)</p>
<p>・ 37 ページ</p>	<p>・ 第 3 の外来種としてナガミヒナゲシは適切でないので、写真を削除する。 ・ 第 3 の外来種の説明を「第 3 の外来種とは人間が手を加えて栽培鑑賞用に品種改良した生きものが野外に流出し、定着したもののことです」等に修正する。 ・ 第 3 の外来種の事例としてはヒメダカが最適ではないか(コイでも良いが)。市民が買ってきたものを飼いきれなくなって放す、良かれと思って放すことが良くない、ということが分かる書き方にするのはどうか。 ・ その他の外来種の事例としてキウイフルーツを挙げていたが、県民に対するインパクトがない上、品種改良されているし、写真もない。代わりに(アサザ、アオモジ、ソウシチョウ等も候補に挙がったが)ヌートリアを検討してはどうか(農業被害、水辺の生物多様性への影響、県の防除実施計画樹立等から)。</p>
<p>・ 38 ページ</p>	<p>・ 下から 3 行目「特定希少野生動植物について及び、」は「特定希少野生動植物について、および、」とする。</p>
<p>・ 46、47 ページ</p>	<p>・ 基本方針と目標のタイトルの、環境省の委託業者が作成した体系図の基本方針のタイトルと合わせる。(3)は「人と自然のつながりの輪の重視」などにする。目次も同様とする。</p>
<p>・ 41 ページ</p>	<p>・ 下から 7 行目、「岩れき」を「岩礫」に修正すること。 ・ 下から 2 行目「生育は極めて限定されており、生育地は石灰岩の」を「生育環境は極めて限定されており、石灰岩の」にした方が良い。</p>

<p>・ 42 ページ</p>	<p>・ 保全の取組で団体名が出ているところと出していないところがあるので、統一すること。</p>
<p>・ 44 ページ</p>	<p>・ コサナエの説明文の「初期成虫時期、成虫後期時期」を「成虫初期、成虫後期」に修正すること。</p>
<p>・ 45 ページ</p>	<p>・ 県が主体となっている保全の取組のことを言うのであれば、キレンゲショウマの「またいずれかの時代にかシカの影響がおよばなくなるときまで登山を続けて取り組んでいきたいと願っています」はおかしい。地元の方に保護活動を頑張ってもらうのであればそういう書き方、県が主体となって取り組んでいるならそういう書き方に統一すること。</p> <p>・ ヒメイノモトソウの「被害」というのは、シダ植物愛好家が採りに来る可能性もあるが、環境変化が個体数の減少に影響したと考えている。モニタリングをしているならば、「個体数調査を実施し、個体数の確認を定期的に行っている」等に表現を変えた方がよい。</p>
<p>・ 47 ページ</p>	<p>・ 2. 目標の 2 行目「次の 3 つの目標を掲げます」と、その下の図に「～豊かな自然を未来の子どもたちへ伝えるための 3 つの使命～」とあり、どちらかに統一した方がよい。または、「～豊かな」の文章は要らないのではないか。</p>
<p>・ 67 ページ</p>	<p>・ 写真の下の説明は、クビアカツヤカミキリはうどん状のフラスを出すのが特徴なので、「うどん状のフラスが吹き出し、根元に溜まっている」とした方がよい。</p>
<p>・ 75、76 ページ</p>	<p>・ 県民に求められる役割について、子どもたちに生物多様性を残していくスタイルは大事だが、次世代にその大切さを知ってもらうために、子どもたちや若者を巻き込ん</p>

	<p>で行動していけるように、5つのアクションの文章に「子どもたちと一緒に」や「若者に参加を求めましょう」というような言葉を入れてはどうか。</p>
--	--

3. その他

<p>・生物多様性なら戦略改定までの今後のスケジュールについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日いただいた意見を元に、最終調整した案について、先生方にメールで確認していただく。 ・1/31：奈良県自然環境保全審議会において生物多様性なら戦略改定の進捗を報告。 2月：県庁内関係各課や関係機関に意見照会。 内容修正等ある場合は、先生方に電話やメールにて意見を伺う。 令和6年度：パブリックコメントの実施および奈良県自然環境保全審議会への本文案の諮問、戦略の公表（年末から年明けの見込み）
-------------------------------------	--